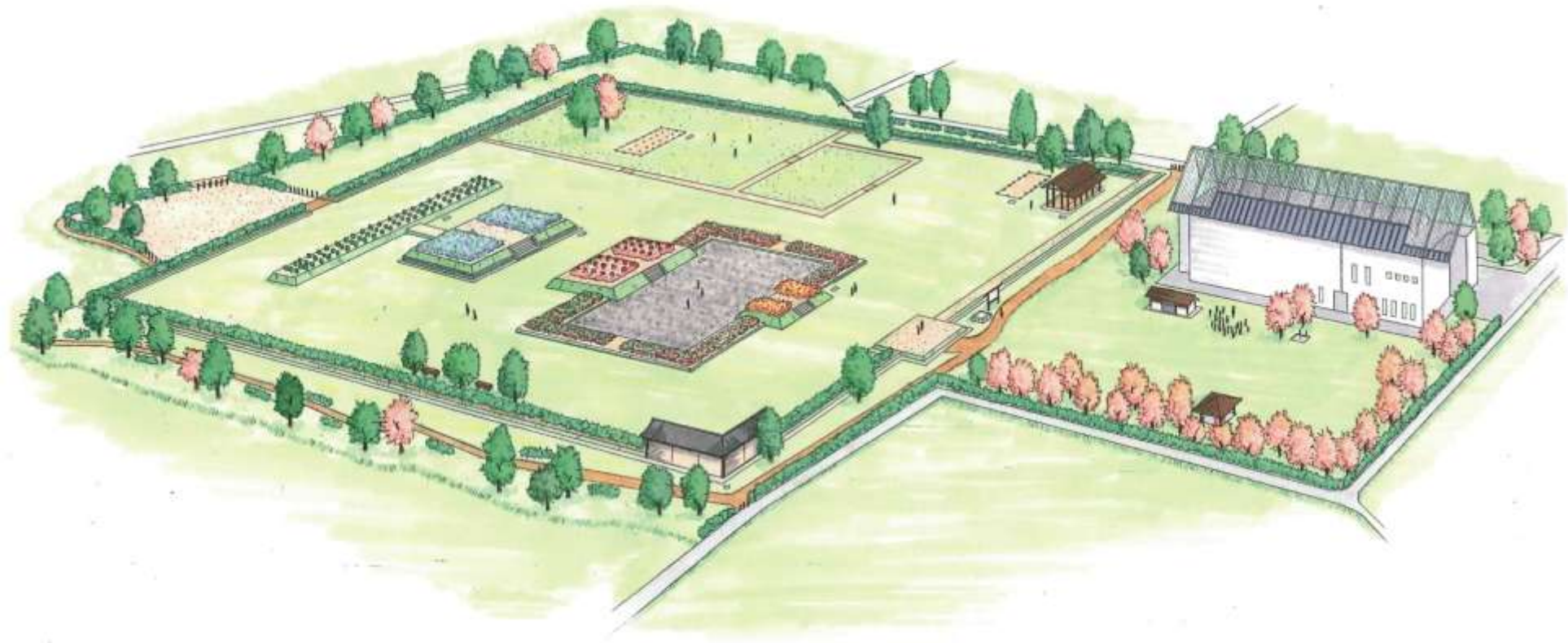
企画展　2008.1.12(土)～3.9(日)　　無料　Take Free

石棒・和同開珎から鈴鹿海軍備品まで

■□■□■□■□■ 寄贈・寄託名品展 ■□■□■□■□■

◎史跡『伊勢国分寺跡』と『鈴鹿市考古博物館』



この図は整備のイメージ図です。今後の発掘調査の結果，内容の変更もあります。

奈良時代，鈴鹿市は畿内から東国への入り口として交通の要衝の地にあたり，「国府」「国分寺」が置かれた伊勢国の中心地でありました。国分寺とは741（天平 13）年，聖武天皇の詔により各国に建てられた官営の寺院のことです。伊勢国の国分寺跡は鈴鹿市国分町に所在し，1922（大正 11）年，国分町字堂跡一帯の 37,180 ㎡が国史跡『伊勢国分寺跡』として指定されました。

1998（平成 10）年 10 月，この史跡の南側に隣接する場所に『鈴鹿市考古博物館』が開館しました。考古博物館は考古資料の展示を企画したり，市内の遺跡の発掘調査を行ったりする他にも，考古学研究・収蔵の場として使用されたり，国分寺のガイダンス施設としての役割もあります。そしてもう一つ，博物館の重要な機能として考古資料の収集があげられます。ありがたいことに開館して以来これまでに，当館には毎年のように市内外のたくさんの方々から貴重な資料を寄贈・寄託していただいております。ただ今までは，残念ながらこれらの資料のほとんどがそのまま収蔵庫で大切に保管されるだけで，なかなか一般の方に見ていただく機会がありませんでした。そこでこの度，日の目を見なかったこれらの資料の中で名品を公開展示し，多くの方々にご覧になっていただこうと考えました。今回の企画については，通常の展示のように一つのテーマに沿って系統的に展示されたものではないため，資料の時代背景がばらばらな上，どこから出土したのか全く分からない資料も多々あります。その分，今回の資料は一点一点が企画展の主役を構成する優品ぞろいで，バラエティーに富んだ逸品ばかりです。見どころ満載の今回の企画展，どうかじっくりご覧になってください。

最後になりましたが，今回の企画展の開催にあたり，ご指導ご協力下さいました方々，さらに当館に貴重な資料を寄贈・寄託していただいた多くの方々にお礼申し上げます。

石器

市内稲生町在住の吉田さんからは石器を 75 点寄託いただきました。これらの石器は，池ノ下遺跡（稲生町池ノ下）３点・今村 A 遺跡（稲生町今村）５点・大新田遺跡（野町大新田）７点・北野遺跡（野町北野）３点・野田遺跡（稲生町野田）６点・祓山遺跡（野町祓山）38 点・山脇遺跡（稲生町山脇）７点・出土地不明６点と稲生地区を中心にした遺跡から採集されたものです。石器の器種はほとんどが石鏃ですが，他にスクレイパー・ナイフ形石器・異形部分磨製石器などがあります。

▽ スクレイパー △

代表的なスクレイパーには，サイドスクレイパー（皮を切ったり，木や骨を削ったりするのに使ったと考えられています。削器ともいいます）とエンドスクレイパー（皮の裏側に付いた脂肪を掻き取る，皮なめしに使ったと考えられています。掻器ともいいます）の２種類があります。

▽ ナイフ形石器 △

石片の一部を鋭く刃のように残し，刃部以外は刃潰しし，全体をナイフのような形に仕上げた石器のことです。

▽ 異形部分磨製石器（いけいぶぶんませいせっき） △

打製石器なのに磨かれて（とろけている）いるため，トロトロ石器ともいいます。形は石鏃に似ていますが、石鏃と比べると大きく，先端が丸くなっているため突き刺す機能がありません。そのため，実際にどのように使用されたものかよく分かっていません。

石器類　　吉田 氏 寄託

石　鏃

スクレイパー

異形部分磨製石器

ナイフ形石器

石棒

2007（平成 19）年に四日市市在住の阪さんから，石棒を寄贈していただきました。四日市市南小松町で砂利採集が行われた際，偶然出土したものだそうです。全長 74cm・直径 8cm・重さ 7.6kg。全面がていねいに磨かれ，均整がとれた見事な両頭（両端に頭部を持つ）石棒です。縄文時代晩期の石棒と考えられます。

▽ 石　棒 △

石を割って形を整え，長い時間をかけて磨き，棒状になるように加工されたものです。その形が男性器に似ていることから，生殖や繁栄を祈願するために，祈りや信仰の対象として作られたと考えられています。縄文時代の中頃から東日本を中心に作られ始めました。製作当初は太くて大型の石棒が作られましたが，縄文時代の終わり頃になると小型化します。長さは数十㎝から 2m を超すものまでありますが、一般的には 50cm 前後の長さです。石棒が立てられた場所は，住居内では炉縁や壁際などに，住居外では集落内の特定の場所に立てられています。完形のまま出土する石棒はまれで，多くは火熱をうけ変色していたり，半分に折れたりした状態で出土します。このことは，祭祀や呪術にかかわる行為が行われた結果だと考えられています。

石棒　　阪 氏 寄贈

ミニチュア土器

土師器小型壺　　永田 氏 寄贈

同じく 2007（平成 19）年に市内岸岡町在住の永田さんから，ほぼ完形の土師器のミニチュア土器 1 点を寄贈していただきました。展示の資料は，口径 5.1 ㎝・高さ 6.3 ㎝・胴の最大径 6.4 ㎝の小型壺です。永田さんからうかがったお話では，この小型壺は今からおよそ 65 年前，漁師であった永田さんのおじいさんがタコ漁に出かけ，海からタコ壺を引き揚げたところ，中からタコとともに出てきたということです。しかも面白いことにタコが大事そうにこの小型壺を抱えていたそうです。

この壺は弥生時代末から古墳時代初頭のものと考えられますが，タコ漁をしていた漁場（比較的岸に近い場所だったそうです）が，その時期にはまだ陸だったのか，それともすでに海であったが何かしらの理由で海中に沈んだ壺をタコが使用していたのか，今となっては知る由もありません。おとぎ話のようなこの話，興味深いものがあります。

▽ ミニチュア土器 △

通常の土器に比べ極端に小型で，手のひらにスッポリ収まってしまうほどの大きさの土器です。このような土器をミニチュア土器と呼んでいます。何のために作られたのかよく分かっていませんが，実用品の他に祭祀や子どものおもちゃ，お墓の副葬品などに使用されたと考えられています。

■□■□■ 岸岡山・愛宕・塚越古墳群 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□

1998（平成 10）年に，愛知県小牧市在住の安藤さんから装飾付須恵器を寄贈していただきました。この須恵器は脚付壺と子持蓋がセットとなるもので，安藤さんのお話では，岸岡山古墳群から出土したものだそうです。

▽ 装飾付須恵器 △

人・動物などの小像や小型の壺・坏などの土器を貼り付けた須恵器のことです。主に墳墓への供献用に製作されたため古墳から出土することがほとんどです。寄贈資料は，通常の壺の蓋につまみとして小型壺が付いています。時期的には６世紀が考えられます。

▽ 岸岡山古墳群 △

岸岡山古墳群は 37 基からなる古墳群で，1965（昭和 40）年には，２号墳（径約 10m の円墳）と３号墳（径約 15m の円墳）の２基が発掘調査され，ともに木棺直葬の主体部から須恵器・鉄製品などが出土しています。また 1997（平成９）年には，この地域で最大規模を誇る全長 50mの前方後円墳である 22 号墳が発掘調査され，くびれ部から形象埴輪を含む大量の埴輪片が出土しました。

2007（平成 19）年に寄託された三重県立神戸高等学校の収蔵資料の中に岸岡山古墳群に近接する愛宕古墳群と塚越古墳群の須恵器がありますので，あわせてご紹介します。

▽ 愛宕古墳群 △

同じ岸岡山に連なる丘の上の古墳群で，岸岡山古墳群のすぐ南に位置します。北側にある１号墳は円墳で，戦時中に砲台陣地となったため消滅してしまいました。南側にある２号墳は前方後円墳で，愛宕神社内にあります。展示の脚付短頸壺は 1963（昭和 38）年に２号墳から出土したものです。

▽ 塚越古墳群 △

塚越古墳群は岸岡山古墳群の北側の岸岡町字塚越にかつて６基ありましたが，開墾のために消滅していき，現在は２号墳しか残っていません。１号墳からは画文帯神獣鏡・二神四獣鏡・捩文鏡の三面の他，勾玉・管玉・紡錘車などが出土（個人蔵）したと言われています。展示の須恵器は 1960（昭和 35）年に出土したものです。

脚付短頸壺
愛宕古墳群
神戸高校寄託

岸岡山古墳群　装飾付須恵器　　安藤 氏 寄贈　　子持蓋

塚越古墳群　須恵器類　　神戸高校寄託

■□■□■ 須恵器 平瓶・提瓶 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

1999（平成 11）年に，市内石薬師町在住の桑原さんから須恵器の平瓶を寄贈していただきました。この資料は 1942（昭和 17）年，石薬師町に陸軍 131 部隊（第一気象連隊）が建設されることになり，その工事中に偶然発見されたものを桑原さんが譲り受けたものです。時期的には６世紀末から７世紀初頭のものと考えられます。

▽ 石薬師東古墳群 △

石薬師町の東部一帯にはかつて 100 基以上の古墳が分布していましたが，前述の工事の際，大多数が破壊されてしまいました。本資料も消滅した古墳の１基から出土したものと考えられます。なお石薬師東古墳群は，三重県消防学校の改築に際し 1993（平成５）年から 1997（平成９）年の５年間，県埋蔵文化財センターによる大規模な発掘調査が行われ，60 基あまりの古墳群が調査されました。

▽ 平　瓶（へいへい） △

須恵器の容器の一つで，「ひらべ」「ひらか」ともいいます。口頸部が体部の中央ではなく側面に寄った位置につくのが特徴です。

須恵器 平瓶　　桑原 氏 寄贈

須恵器 平瓶　　椎名 氏 寄贈　　須恵器 提瓶

また，2000（平成 12）年には，市内国分町在住の椎名さんから須恵器の平瓶と提瓶（フラスコ形瓶）を寄贈していただきました。これら２点の須恵器は 1972（昭和 47）年，市内国分町と四日市市との境の丘陵上に鎮座する菅原神社の東の山中から出土したものを椎名さんが保管していたものです。鈴鹿市遺跡地図によると，かつてこの辺りには富士山古墳群が分布していましたが，多くが後世の開墾によって消滅してしまい，現在は１号墳しか残っていません。出土状況の詳細は不明ですが，この古墳群から出土した可能性が考えられます。

▽ 提　瓶（ていへい） △

須恵器の容器の一つで，「さげべ」ともいいます。体部の一方の面を平らにし，もう一方の面はやや丸みを持たせます。作られた当初は，左右の肩部に一対の環状の把手をそなえ，これにつりひもをかけて水筒のように使用し始めますが，やがて把手が鉤形，そして碁石（ボタン）形に変化し，最終的に消滅します。本資料は把手がつかないことから時期的には７世紀前半の提瓶と考えられます。

■□■□■ スタジオ 33　土器復元・彩色用資料 ■□■□■□■□■□

1998（平成 10）年に，京都市西京区にある株式会社スタジオ 33 から 280 点（須恵器 181 点，陶棺 1 点，方筒状土製品５点，土師器・弥生土器 52 点，土錘 2 点，埴輪片 11 点，瓦８点，山茶碗 1 点，山皿１点，サヌカイト片１点，その他 17 点）もの考古資料を寄贈していただきました。

スタジオ 33 は博物館展示用の模型を製作する会社で，鈴鹿市考古博物館開館にあたり常設展示室のジオラマを製作しました。これらの資料は同社の社員が，1992（平成 4）年に東寺の骨董市で購入したもので，土器復元・彩色用の資料として利用されていたものだそうです。問題はこれらの資料に「西高山」「末野」「郡山大野古墳」「中瀬古前方後円墳」などの出土地が注記されていたことです。この出土地はすべて鈴鹿市にある遺跡名です。当館職員がたまたま展示の打ち合わせで同社を訪れた際に，彩色見本としてこれらの資料を手にしたことで判明しました。これらの資料はおそらく，鈴鹿市在住の個人の方が収集されていたものでしょう。それが何らかの理由で処分され，古物商の手に渡ったものと推察されます。

このような事情から，博物館完成後にスタジオ 33 の方から，地元で保管すべき資料であるとのご厚意で寄贈を受けました。破片資料がほとんどですが，注記のあるものは鈴鹿市南部の中ノ川流域に所在する遺跡名が書かれています。

株式会社スタジオ 33　寄贈

須恵器　坏蓋・坏身

陶棺(蓋の破片)

甑（こしき）　山茶碗　山皿

円筒埴輪・朝顔形埴輪

■□■□■ 方筒状土製品・袋状土製品 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□

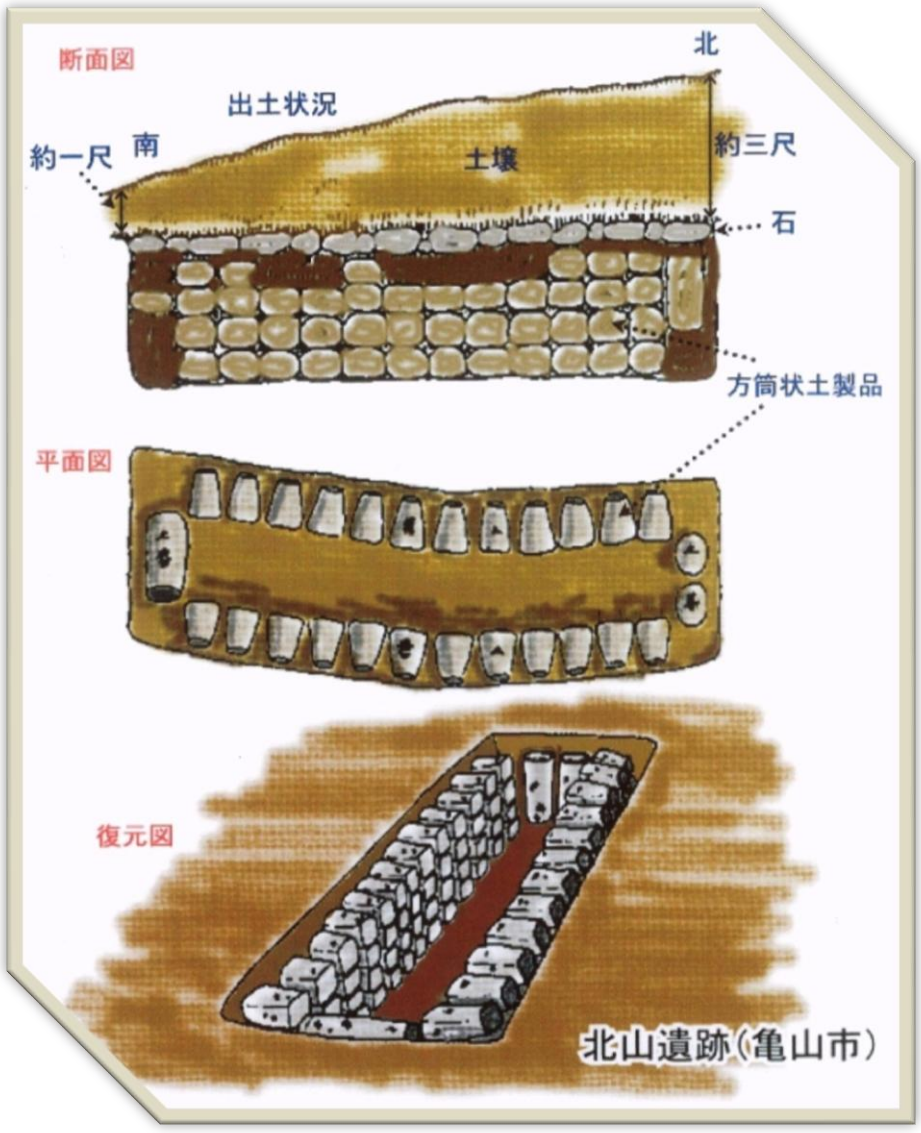
2000（平成 12）年に，市内三宅町在住の中尾さんから石器・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・埴輪・瓦・中世陶器など計 371 点を寄贈していただきました。出土地不明の資料が多い中で，注目されるのは亀山市下ノ庄町北山に所在する北山遺跡から出土した方筒状土製品と袋状土製品です。

▽ 北山遺跡 △

1927（昭和２）年，下ノ庄町の北方の丘陵から特殊な遺構が発見されました。規模が 1.8m×1.2m の長方形の土坑の周囲に方筒状・袋状土製品を整然と積み重ねて部屋を築いたものです。発見当時は古代の土器貯蔵施設ではないかと考えられていましたが，後に古墳であることが判明しました。この時の調査担当者である鈴木氏からも当館開館以前に鈴鹿市に，方筒状土製品を寄贈いただいておりますのであわせて展示します。

▽ 方筒状土製品・袋状土製品 △

これらの土製品は，横穴式石室の石材の替わりに用いられた構築部材です。方筒状土製品は墓室の長辺壁際に平坦な底部を内側に向けて積み重ね側壁を築きます。また，袋状土製品は，墓室の短辺壁際に直立させたり，横置きにしたりして壁材としています（右図参照）。



断面・平面図　鈴木 敏雄「考古学雑誌」 第 17 巻 第 10 号 1927 より
復元図　藤原 秀樹「中の川流域の考古学」 1993 より

方筒状土製品　北山遺跡（左・中）　金井場窯跡（右）

中尾 氏 寄贈

鈴木 敏雄 氏 寄贈

当館蔵

中尾 氏 寄贈　袋状土製品（北山遺跡）

常滑壺

須恵器

磨製石斧　石鏃・石槍（黒曜石）

■□■□■ 山辺横穴墓・山辺古墳群 ■□■□■□■□■□■□■□■□■

瓦質土器・土師器皿（神戸高校寄託）

瓦質土器の唐草文

市内山辺町には，かつて山辺横穴墓（1～4号墓）と山辺古墳群（1～5 号墳）がありました。

▽ 山辺横穴墓 △

山辺横穴墓は 1952（昭和 27）年 11 月，大井神社裏の丘陵で土砂採取中に偶然発見されました。これをうけ，12 月に名古屋大学考古学研究室が発掘調査を行いました。調査の結果，横穴墓の築造時期は 7 世紀以降と推定され，出土遺物には横穴の採光のために使用されたのか，それとも祭祀のためのものかはっきりしませんが，土師器の灯明皿と唐草文の一部が描かれた瓦質土器などが出土しました。これらの資料も寄託を受けた神戸高等学校所蔵資料の一部です。

▽ 山辺古墳群 △

山辺古墳群は残念ながら 1890（明治 23）年，鉄道建設（現 JR 関西本線）の際，土取り場となったため破壊され消滅しました。

また 2000（平成 12）年には，市内山辺町の田中さんから箱式石棺の石材 4 枚を寄贈いただきました。

▽ 箱式石棺 △

箱式石棺とは遺骸を埋葬する施設で，板石を箱型に組み合わせ，木や石の蓋で覆った墓のことです。寄贈された石材は，山辺古墳群のうち，5 号墳の箱式石棺だと考えられています。その大きさ・重さから，館内に収蔵することは無理があったため，野外（博物館北側）に展示してあります。お帰りの際，国史跡『伊勢国分寺跡』とあわせてご覧いただければと思います。

箱式石棺の石材４枚　　田中 氏 寄贈

■□■□■ 和同開珎 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

展示の和同開珎とガラス乾板写真 2 枚は，2002（平成 14）年に市内加佐登町在住の湯浅さんから寄贈いただきました。これらの資料は教育者であり郷土史家でもあった故 鈴木 敏雄 氏(1888～1964)が所蔵していたもので，和同開珎は鈴鹿海軍航空隊（白子飛行場）跡地で出土したものだそうです。

▽ 和同開珎 △

708(和銅元)年に，鋳造・発行された銭貨で，皇朝十二銭の第 1 番目に位置付けられています。読み方についての正式な記録が残っていないため,「珎」を「珍」の異体字として「チン」と読む説と,「寶」の略字として「ホウ」と読む説があり，江戸時代から議論が続いています。

▽ 皇朝十二銭 △

本朝十二銭（ほんちょうじゅうにせん），皇朝十二文銭（こうちょうじゅうにもんせん）と呼ばれることもあります。708（和銅元）年から 963（応和 3）年にかけて，日本で鋳造された 12 種類の銅銭の総称です。年代順に下の 12 種類があります。

No.	銭　名	読　み　方	鋳　造　年
1	和同開珎	わどうかいちん（ほう）	708（和銅元）年
2	万年通宝	まんねんつうほう	760（天平宝字4）年
3	神功開宝	じんぐう（こう）かいほう	765（天平神護元）年
4	隆平永宝	りゅうへいえいほう	796（延暦 15）年
5	富寿神宝	ふじゅしんぽう	818（弘仁9）年
6	承和昌宝	じょうわしょうほう	835（承和2）年
7	長年大宝	ちょうねんたいほう	848（嘉祥元）年
8	饒益神宝	にょうえき（やく）しんぽう	859（貞観元）年
9	貞観永宝	じょうがんえいほう	870（貞観 12）年
10	寛平大宝	かんぴょうたいほう	890（寛平2）年
11	延喜通宝	えんぎつうほう	907（延喜7）年
12	乾元大宝	けんげんたいほう	958（天徳2）年

和同開珎
湯浅 氏 寄贈

和同開珎(大欠積石塚)
当館蔵

無文銀銭(北野古墳)
当館蔵

学校の教科書には最近まで,「和同開珎」が日本最古の貨幣であると記述されていましたが，1999（平成 11）年 1 月に奈良県明日香村の飛鳥池遺跡から，和同開珎より年代が古いとされる「富本銭（ふほんせん）」とよばれる銅銭が発見されました。ただ，この富本銭は厭勝銭（まじない用）として使用されていて，和同開珎のように貨幣としては流通していなかったのではないかという説もあり，学説が分かれているため注目を集めています。また，この富本銭よりもさらに古い貨幣として「無文銀銭」が知られていますが，これは銀の地金的な価値で取り引きされ，物々交換的に使用された秤量貨幣と考えられているため，こちらも貨幣と認めるかどうかは議論があります。

寄贈の和同開珎とあわせて参考出品として，当館所蔵の市内加佐登町大欠積石塚（おおかけつみいしづか）出土の和同開珎と同町北野古墳出土の無文銀銭も展示します。

▽ 無文銀銭 △

銀製の円板中央に小孔が開けられています。○や×，田などの記号が線刻・刻印されているものの他,「大」「伴」「高志」の文字が刻まれた銀銭もありますが,『和同開珎』のような銭名は記されていません。直径３㎝，厚さ２㎜前後で大きさに統一性がみられません。重さをそろえるために銀の小片を貼り付けたと考えられていますが，８ｇから 10ｇと重さにもばらつきがあります。主に関西地方（大阪・京都・奈良・滋賀・三重）の 17 遺跡から約 120 枚出土しています。

■□■□■ 神戸高校資料＆大場コレクション ■□■□■□■□■□■□■□

▽ 神戸高校　郷土史研究クラブ △

県内５番目の旧制中学校として 1920（大正９）年に創立され，87 年の歴史を持つ県立神戸高等学校には数百点の考古資料が収蔵されています。これらの資料は主に同校の郷土史研究クラブが市内の遺跡の発掘調査を行った際に出土したものです。市内の歴史を物語るこれらの神戸高校の貴重な資料を今年度，すべて寄託していただきました（現在整理中）。

神戸城跡　瓦

郷土史研究クラブの歴史は古く，戦後まもない 1948（昭和 23）年から活動を始めています。この郷土史研究クラブの顧問としてクラブ員を指導していたのが故 仲見 秀雄 先生と故 大場 範久 先生でした。仲見先生は郷土史研究クラブ員を率いて，まだ埋蔵文化財保護行政が十分に確立していない昭和 30～40 年代に，鈴鹿市の遺跡保護活動と発掘調査を担われました。特に 1960（昭和 35）年の上箕田遺跡の発掘調査と報告書は当時としては水準の高いものであり，上箕田遺跡は弥生時代の代表的な遺跡として歴史の教科書や資料集にも紹介されることになりました。さらに，1974（昭和 49）年から 28 年間，鈴鹿市文化財調査会の会長として各種の文化財保護を推し進められるとともに，「鈴鹿市史」（全５巻）の編纂にも力を尽くされました。

北一色遺跡　縄文土器

保子里古墳群　須恵器

高岡山　弥生土器　　高岡山古墳群　須恵器短頸壺

岡田古墳群　須恵器

▽ 大場コレクション △

大場先生も仲見先生の後に郷土史研究クラブの活動や鈴鹿市文化財調査会の会長を引き継がれ，鈴鹿市の文化財保護にご尽力いただきました。

今回，大場先生のご遺族から，故人が収集した貴重な資料 94 点を寄贈いただきました。資料の内訳は考古資料 65 点（瓦・塼など）と書籍など 29 点（報告書・遺跡調査記録・8 ㎜フィルムなど）です。このうち今回展示する考古資料は鈴鹿市を代表する「伊勢国府跡」（長者屋敷遺跡）の文字瓦と「伊勢国分寺跡」の塼（せん）・軒平瓦，四日市市の大膳寺瓦窯跡出土と注記された軒平・軒丸瓦です。

大場 氏 寄贈　　伊勢国分寺跡　軒丸・軒平瓦
軒平瓦中央は南浦(大鹿)廃寺のものか

大場 氏 寄贈　　大膳寺窯跡出土　軒丸・軒平瓦

▽ 大膳寺跡 △

四日市市南いかるが町に所在する寺院跡です。伝承では平安時代に，慈恵大師(じえだいし)の弟子の覚鎮(かくちん)が建立したとされています。大膳寺跡の発掘調査は 1977（昭和 52）年から 1981（昭和 56）年まで５年間かけて行われました。調査の結果，建物跡や土坑，溝跡などの遺構とともに平安時代の瓦や土師器・墨書土器・土馬などが発見されました。現在は農地・住宅地になっていますが，1955（昭和 30）年に四日市市の史跡に指定されています。

1952（昭和 27）年，この大膳寺跡のすぐ西にある丘陵斜面で土砂採取中に瓦窯跡が見つかり，多くの瓦が出土しました。この時は残念ながら，発掘調査を行わないまま瓦窯跡は全壊しました。おそらく，大場コレクションの大膳寺瓦窯跡出土とされる瓦も，ここから出土したものだと考えられます。

■□■□■ 神戸高校資料＆大場コレクション ■□■□■□■□■□■□

▽ 塼（せん）△

焼成されたレンガに近いものです。現在のタイルやブロックのように平らに敷いたり，積み重ねたりして，建物の構造材や化粧材・床面に使用されました。形状には方形・長方形・三角形・台形などがあり，文様や銘文の有無によって文様塼と無文塼に分けられます。

寄贈資料は伊勢国分寺跡から出土した無文長方形塼２点と無文台形塼３点です。

大場 氏 寄贈　　伊勢国分寺跡出土　塼

▽ 文字瓦いろいろ △

「上」

「上」の裏文字

「守」の裏文字

「人」

▽ 伊勢国府跡の文字瓦（押印瓦） △

伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）と伊勢国分寺跡からは 400 点を超える文字瓦が出土しています。押印された文字には小・前・人・上・百・羊・大・手・川・中・キ・内・宿・水・首・守・天・丁・申・石・領・三・勾など 20 数種類の文字があります。一般に文字の意味としては，人名・地名・役所名・年号などが考えられていますが，伊勢国府跡の文字瓦については，人名の一部である可能性が高いです。

神戸高校・大場コレクションの他にも広瀬町の辻さんの文字瓦（寄託）もあわせて展示します。

「大」

「中」（?）

「宿」

「手」

「百」

「首」

※「上」・「上」の裏文字・「守」の裏文字・「人」・「大」・「中」(?)・「宿」・「手」は大場 氏 寄贈　　「百」・「首」は神戸高校寄託資料

■□■□■平田野中学校資料 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

鈴鹿市立平田野中学校は鈴鹿市のほぼ中央の国府町に 1947（昭和 22）年創立されました。当初は５つの学校区でしたが，1984（昭和 59）年，三日市町に創徳中学校が創立されたことに伴い，牧田・飯野小学校区は分離し，現在は庄野・国府・明生の３学区が校区です。校区を見渡してみると，庄野・明生地区には大きな遺跡はほとんどありませんが，国府地区にはその名前が示す通り，「伊勢国府」に関連する遺跡や王塚古墳をはじめとするたくさんの古墳が所在し，市内でも１，２を争う遺跡の集中地区として知られています。寄贈された資料には，「八野町釈迦堂跡」「西ノ野」などの国府地区の地名が注記されていることから，平田野中学校に長い間，所蔵・保管されていた資料の多くは地元の国府地区から出土したものと考えられます。

須恵器　土師器

埴輪

土師器

丸瓦

平瓦

鈴鹿市立平田野中学校

山茶碗
山皿

常滑壺

鈴鹿海軍関連資料

▽ 軍都鈴鹿市 △

博物館がある鈴鹿市には世界的にも有名な鈴鹿サーキットがあり，「F-1 日本グランプリ」や「鈴鹿８時間耐久レース」などの車やバイクの国内外レースによりモータースポーツの聖地として，また本田技研工業がある工業都市としてよく知られているところです。しかし，過去を振り返ってみますと，第二次世界大戦中は軍事施設が集中し，1942（昭和 17）年にこれらを基盤として発足した市でありました。軍の施設を大別すると，海軍としては白子町付近を中心とする「鈴鹿海軍航空隊」と平田町付近中心とする「鈴鹿海軍工廠」の２ヶ所がありました。さらに鈴鹿川以北の台地上には陸軍に関連する施設がありました。

▽ 鈴鹿海軍航空隊 △

正門衛兵所

1938（昭和 13）年に鈴鹿海軍航空隊が，第一鈴鹿海軍航空基地内に置かれました。ここでは，通信偵察飛行の訓練や航空機の試験飛行が行われていました。全国から集まった若者は教育・訓練を受け各地へ配属されていきました。同基地は電気通信学園跡地（後の NTT 西日本研修センター）を中心とする場所にあり，今でも正面入り口に当時の守衛所が残されています。

▽ 鈴鹿海軍工廠 △

海軍工廠とは，海軍直営の軍需工場（工廠）のことです。下の全国 14 ヶ所に開設され，艦船・航空機・各種兵器・弾薬等を開発・製造していました。鈴鹿海軍工廠は平田町を中心に国府・牧田・飯野・庄野地域まで広がった場所にありました。

海軍工廠の銘板

No.	海軍工廠名	所在地	設置（開廠）年
1	呉海軍工廠	広島県	1903（明治 36）年 11 月
2	横須賀海軍工廠	神奈川県	1903（明治 36）年 11 月
3	佐世保海軍工廠	長崎県	1903（明治 36）年 11 月
4	舞鶴海軍工廠	京都府	1903（明治 36）年 11 月
5	広海軍工廠	広島県	1923（大正 12）年　4 月
6	豊川海軍工廠	愛知県	1939（昭和 14）年 12 月
7	光海軍工廠	山口県	1940（昭和 15）年 10 月
8	川棚海軍工廠	長崎県	1943（昭和 18）年　5 月
9	相模海軍工廠	神奈川県	1943（昭和 18）年　5 月
10	鈴鹿海軍工廠	三重県	1943（昭和 18）年　6 月
11	沼津海軍工廠	静岡県	1943（昭和 18）年　6 月
12	多賀城海軍工廠	宮城県	1943（昭和 18）年 10 月
13	津海軍工廠	三重県	1944（昭和 19）年　4 月
14	高座海軍工廠	神奈川県	1944（昭和 19）年　4 月

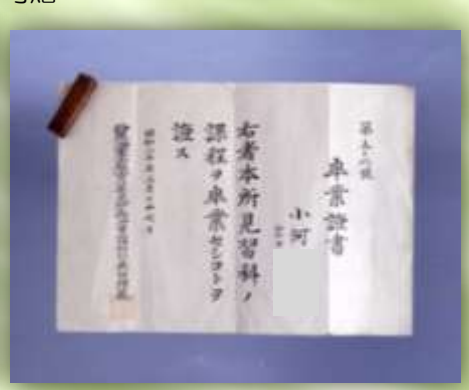
岩脇 氏　寄贈

秤
【火工部で使われていたもの】

薬瓶・乳鉢・乳棒

小河 氏　寄贈

ヤスリ・ゲージ・打刻器
【機銃部で使われていたもの】



鈴鹿海軍工廠工員養成所卒業証書
工員印

これらの鈴鹿海軍に関連する資料を 2002（平成 14）年，亀山市在住の岩脇さんから 13 点，市内加佐登町在住の小河さんから 33 点，2007（平成 19）年には，市内白子町在住の辻さんから２点寄贈していただきました。

消火栓【海軍航空基地にあったもの】

陸軍用地標柱

制水弁筐

岩脇 氏　寄贈

湊谷 氏　寄贈

海軍工員心得【複製】

辻 氏　寄贈

海軍からの礼状
【辻氏が海軍の吹流を拾って届けた】

辻 氏　寄贈

海軍航空隊通門証
【白子地区に１枚のもの】

書籍

考古博物館に寄贈・寄託される資料は土の中から出土した物ばかりとは限りません。当館には毎日のように全国の自治体や博物館・資料館が刊行した発掘調査報告書や図録等が届きます。これらは都道府県別に整理された後，博物館２階の資料室にある書庫に収蔵され，当館職員の研究，展示計画の参考や発掘調査報告書作成の際に利用されています。

これとは別に，個人の方からも同様に大切な書籍を寄贈いただいています。こちらの方は当然個人が購入・収集したものですので，新しいものばかりではなく，中には廃刊になったものや絶版のもの，部数限定のものもあり，どれも博物館にとって大変貴重な資料となっています。

2005（平成 17）年に市内東磯山在住の石田さんから 157 冊，続く 2006（平成 18）年には同じく東磯山在住の伊藤さんからも 1841 冊の県内外の発掘調査報告書などを寄贈していただきました。また 2007（平成 19）年にも，市内長太旭町在住の眞田さんから数千冊（現在整理中）の考古学に関連する書籍を寄贈していただきました。これらの書籍はそれぞれ「石田文庫」「伊藤文庫」「眞田文庫」と名付け，考古ラボ・書庫に所蔵してあります。

石田 氏 寄贈　　石田文庫　一部

伊藤 氏 寄贈　　伊藤文庫　一部

眞田 氏 寄贈　　眞田文庫　一部

おわりに

▽ 博物館から皆様にお願い △

今回の企画を通して，皆様方には博物館の大切な機能の一つとして「資料の収集」があることをご理解していただけましたでしょうか？　実は，これらの展示品は多くの方に寄贈・寄託していただいた資料のほんの一部なのです。当館の収蔵庫には，まだまだ沢山の寄贈・寄託品が保管されているのです。できるだけたくさんの寄贈・寄託資料を公開しようと考えていますので，近い将来「寄贈・寄託名品展　PartⅡ」が企画されることが予想されます。そこで，今回の展示を見ていただいて，皆様方の持ち物の中に博物館に寄贈・寄託してもいいかなと思われる資料がございましたら，ぜひこの機会に当館まで連絡をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

▽ 主な参考文献 △

仲見　秀雄 ほか	「鈴鹿市史　第１巻」	1980	鈴鹿市教育委員会
花井　圭一 ほか	「鈴鹿市史　第３巻」	1989	鈴鹿市教育委員会
藤原　秀樹 ほか	「中ノ川流域の考古学」	1993	鈴鹿市教育委員会　中ノ川流域の方筒状土製品をめぐって
新田　　剛 ほか	「鈴鹿市考古博物館年報　第１号」	2000	鈴鹿市考古博物館　Ⅱ．資料紹介
岡田　雅幸 ほか	「鈴鹿市考古博物館年報　第２号」	2001	鈴鹿市考古博物館　Ⅱ．資料紹介
吉田真由美 ほか	「鈴鹿市考古博物館年報　第３号」	2002	鈴鹿市考古博物館　Ⅱ．資料紹介
新田　　剛	「戦争遺跡を掘る。」	2002	鈴鹿市考古博物館　市制 60 周年記念企画展　図録
新田　　剛	「文字瓦を考える」	2004	鈴鹿市考古博物館　平成 15 年度企画展　図録
岡田　雅幸 ほか	「ぼくのわたしのたからもの」	2006	鈴鹿市考古博物館　平成 18 年度企画展　パンフレット
北野　　保 ほか	「大膳寺跡」	1978	四日市市教育委員会
鈴木　敏雄	「考古学雑誌」	1927	第 17 巻　第 10 号
	「史跡伊勢国分寺跡整備基本計画」	2007	鈴鹿市

▽ 例　言 △

〇本パンフレットは平成 19 年度企画展「石棒・和同開珎から鈴鹿海軍備品まで　―寄贈・寄託名品展―」に際し作成したものです。
〇本パンフレットの編集・執筆は鈴鹿市考古博物館　岡田 雅幸 が担当しました。
〇本パンフレットに掲載した写真は鈴鹿市考古博物館　新田 剛 と 岡田 が撮影しました。
〇本パンフレットに掲載した資料は展示資料のすべてではありません。また，展示資料は変更される場合があります。

▽ 講演会のお知らせ △

第１回
演　題：「考古の社会史」
日　時：平成 20 年１月 12 日（土）14:00～
講　師：小玉 道明 さん（三重県史編さん専門委員）

第２回
演　題：「三重県史編さんと資料保存について」
日　時：平成 20 年２月 16 日（土）14:00～
講　師：吉村 利男 さん（三重県史編さんグループ）

■企画展「石棒・和同開珎から鈴鹿海軍備品まで－寄贈･寄託名品展－」展示資料一覧

No.	資料名	寄贈・寄託者名	備考	数量
1	スクレイパー	吉田氏寄託	祓山遺跡	1
2	ナイフ形石器	吉田氏寄託	祓山遺跡	5
3	異形部分磨製石器	吉田氏寄託	今村Ａ遺跡	1
4	石鏃	吉田氏寄託	祓山遺跡　他	28
5	石匙	吉田氏寄託	大新田遺跡	1
6	石錐	吉田氏寄託	北野遺跡・山脇遺跡	2
7	剥片	吉田氏寄託	祓山遺跡	6
8	石棒	阪氏寄贈	両頭石棒	1
9	土師器小型壺	永田氏寄贈	ミニチュア土器	1
10	須恵器脚付壺	安藤氏寄贈	岸岡山古墳群	1
11	須恵器子持蓋	安藤氏寄贈	岸岡山古墳群	1
12	須恵器平瓶	桑原氏寄贈	石薬師東古墳群	1
13	須恵器平瓶	椎名氏寄贈	国分町出土	1
14	須恵器提瓶	椎名氏寄贈	国分町出土	1
15	須恵器坏蓋	スタジオ 33 寄贈		4
16	須恵器坏身	スタジオ 33 寄贈		3
17	土師器甑	スタジオ 33 寄贈		1
18	陶棺	スタジオ 33 寄贈	郡山大野古墳群	1
19	円筒埴輪	スタジオ 33 寄贈	経塚古墳　他	11
20	朝顔形埴輪	スタジオ 33 寄贈	経塚古墳	2
21	山茶碗	スタジオ 33 寄贈	「末野」の注記あり	1
22	山皿	スタジオ 33 寄贈	「中世古」の注記あり	1
23	磨製石斧	中尾氏寄贈		2
24	石鏃	中尾氏寄贈	黒曜石	22
25	石槍	中尾氏寄贈		8
26	方筒状土製品	当館	金井場遺跡	1
27	方筒状土製品	鈴木氏寄贈	北山遺跡	1
28	方筒状土製品	中尾氏寄贈	北山遺跡	1
29	袋状土製品	中尾氏寄贈	北山遺跡	1
30	須恵器坏蓋	中尾氏寄贈		3
31	須恵器坏身	中尾氏寄贈		2
32	常滑壺	中尾氏寄贈		1
33	箱式石棺石材	田中氏寄贈	屋外展示	4
34	無文銀銭	当館	北野古墳	1
35	和同開珎	当館	大欠積石塚	1
36	和同開珎	湯浅氏寄贈	白子町出土	1
37	乾板写真	湯浅氏寄贈		2
38	縄文土器	神戸高校寄託	北一色遺跡	7
39	弥生土器壺	神戸高校寄託	高岡山	1
40	須恵器脚付短頸壺	神戸高校寄託	愛宕古墳群	2
41	須恵器高坏	神戸高校寄託	塚越古墳群　他	7
42	須恵器短頸壺	神戸高校寄託	塚越古墳群　他	3
43	須恵器坏蓋	神戸高校寄託	塚越古墳群　他	6
44	須恵器坏身	神戸高校寄託	塚越古墳群　他	9
45	須恵器器台	神戸高校寄託	岡田古墳群	1
46	須恵器台付壺	神戸高校寄託	岡田古墳群	1
47	須恵器提瓶	神戸高校寄託	岡田古墳群　他	2
48	文字瓦	神戸高校寄託	伊勢国府跡	4
49	瓦質土器	神戸高校寄託	山辺横穴墓	1
50	土師器皿	神戸高校寄託	山辺横穴墓	2
51	軒丸瓦	神戸高校寄託	神戸城跡	5
52	鳥衾	神戸高校寄託	神戸城跡	1

No.	資料名	寄贈・寄託者名	備考	数量
53	軒平瓦	神戸高校寄託	神戸城跡	2
54	桟瓦	神戸高校寄託	神戸城跡	1
55	文字瓦	辻氏寄託	伊勢国府跡	2
56	文字瓦	大場氏寄贈	伊勢国府跡	8
57	塼	大場氏寄贈	伊勢国分寺跡	5
58	軒丸瓦	大場氏寄贈	伊勢国分寺跡　他	7
59	軒平瓦	大場氏寄贈	伊勢国分寺跡　他	6
60	須恵器坏蓋	平田野中学校寄贈	八野釈迦堂跡　他	5
61	須恵器坏身	平田野中学校寄贈	八野釈迦堂跡　他	7
62	須恵器高坏	平田野中学校寄贈	八野釈迦堂跡	2
63	須恵器高坏蓋	平田野中学校寄贈	八野釈迦堂跡　他	2
64	須恵器短頸壺	平田野中学校寄贈	八野町	1
65	須恵器壺	平田野中学校寄贈	八野町	1
66	土師器壺	平田野中学校寄贈	八野町	1
67	土師器小型鉢	平田野中学校寄贈		1
68	円筒埴輪	平田野中学校寄贈		4
69	人物埴輪	平田野中学校寄贈	八野町	3
70	土師器台付甕	平田野中学校寄贈		1
71	山茶碗	平田野中学校寄贈	八野町　他	2
72	山皿	平田野中学校寄贈	八野町	2
73	常滑壺	平田野中学校寄贈		1
74	平瓦	平田野中学校寄贈	八野瓦窯跡	1
75	丸瓦	平田野中学校寄贈	八野瓦窯跡	2
76	制水弁筐	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
77	消火栓	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
78	ハンモック	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
79	パラシュート金具	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
80	パラシュート紐	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
81	秤	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
82	分銅	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
83	ガラス瓶	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
84	試験管	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
85	ガラス乳鉢	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
86	ガラス乳棒	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
87	薬品	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
88	温度計	岩脇氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
89	行燈	岩脇氏寄贈		1
90	ヤスリ	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	12
91	打刻器	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	10
92	内径パス	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
93	外径パス	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
94	鏨	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
95	万力	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
96	卒業証書	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
97	工員印	小河氏寄贈	鈴鹿海軍工廠	1
98	標柱	小河氏寄贈	陸軍用地標	1
99	海軍工員心得	湊谷氏寄贈	鈴鹿海軍工廠　複製	1
100	礼状	辻氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
101	通門証	辻氏寄贈	鈴鹿海軍航空隊	1
102	書籍	石田氏寄贈		9
103	書籍	伊藤氏寄贈		10
104	書籍	眞田氏寄贈		10

展示資料　　合計　　320

■企画展　パンフレット
「石棒・和同開珎から鈴鹿海軍備品まで　-寄贈・寄託名品展-」
2008.1.12～3.9

編　集：鈴鹿市考古博物館
発行日：平成 20 年 1 月 12 日
印　刷：有限会社　三鈴印刷